

実務経験のある教員等による授業科目

# シラバス

ミュージシャン学科

ベース専攻

授業科目		授業時数
アンサンブル		124

学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ベース専攻

**担当講師(プロフィール)**  
 麻生 隆治  
 プロミュージシャンとして複数のLM楽器を演奏できる力を生かし4リズムパート学生の合奏精度を高めていく方法を教えてくれる。

前期
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>●他パートの演奏の把握</li> <li>●アレンジへの対応</li> <li>●楽曲に合った音量、音色の表現</li> <li>●アイコンタクトの実施</li> </ul>

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト(その他)

授業計画	
授業項目	実施内容
1	■教室設備について解説 ■課題曲アンサンブル指導についての心構え
2	
3	
4	課題曲アンサンブル指導
5	
6	
7	課題曲アンサンブル指導
8	
9	
10	課題曲アンサンブル指導
11	
12	
13	課題曲アンサンブル指導
14	
15	
16	前期の復習及びまとめ

授業の方法
講義・演習・実験・実技(実習)

**授業概要**  
 アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マネー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。  
 <実務経験のある教員等による授業科目>

**使用教材:**

後期
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>●他パートの演奏の把握</li> <li>●アレンジへの対応</li> <li>●楽曲に合った音量、音色の表現</li> <li>●アイコンタクトの実施</li> </ul>

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト(その他)

授業計画	
授業項目	実施内容
1	課題曲アンサンブル指導
2	
3	
4	課題曲アンサンブル指導
5	
6	
7	課題曲アンサンブル指導
8	
9	
10	課題曲アンサンブル指導
11	
12	
13	課題曲アンサンブル指導
14	
15	

授業科目		授業時数
音楽理論		62
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ベース専攻
担当講師(プロフィール)		
<p>能勢 英史 オーソドックスなジャズミュージシャンとしてしっかりしたセオリーを指導、各楽器に実用性ある内容として「音楽理論」を指導される。</p>		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎楽典の習得</li> <li>●調性の理解 コードの基礎</li> </ul>		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 記譜法① 音名	五線紙上に現れる音名を学びます。イタリア/フランスの読み方からスタート、日本・米/英語・ドイツを学びます。米/英語表現のCDEFGABを使用していきます。	
2 記譜法② 楽譜	その楽曲の規則性を表す音部記号・調性記号・拍子記号等の表現について理解していきます。譜面進行上のルール等も学んでいきます。	
3 記譜法③ 音価	色々な音符の長さや休符等を学びます。いろんな拍子記号の中でTEMPOやリズムの変化に伴う音符形式、強弱表現、そして楽曲進行上の進み方を理解します。	
4 記譜法④ 拍子	拍子記号に表される単純・複合拍子を学習。曲の始まり方、曲の終わり部分に着目します。	
5 記譜法⑤ シンコペーション	拍が繋がるシンコペーション、小節間が繋がるシンコペーションを理解します。※ポリリズムの簡単なものも学習します。	
6 長音階	長音階Key=Cと短音階Key=Amの平行調、その共通性を理解。まずは色々な高さの長音階を書きながら理解していきます。	
7 短音階	短音階Minor Scaleを、①各音間の理解、②Major Scaleの第6音からの導き出し等、色々な角度から理解していきます。	
8 調性	臨時記号で記述したスケールを、そのスケールが存在するKeyを調性記号を使って理解します。	
9 関係調	それぞれに関係を持つことになる近親調、属・下屬調、平行調・同主調等を学習します。	
10 移調と転調	記述されているKeyからある目的があって別の高さに移動させる「移調」、曲の進行中にある効果を考えて別のKeyに変わる「転調」を学習します。	
11 音程① 長・短音程	音程の種類別に学習、まずは、長音程と単音程に関する2度、3度、6度、7度を学び、転回形の理解も深めるようにする。(表現方法M、m)	
12 音程② 完全音程	完全音程と表現する4、5度を理解する(4度下降、5度上行)。(表現方法P)	
13 音程③ 増・減音程	音程距離は、全音3つ分となり1オクターブの半分の距離だが、表記される位置関係によって増4度・減5度と表現される。トライトーンという表現がある。(表現方法+、-)	
14 音程④ 転回形も含む音程について	複音程、転回形を含めた音程についての復習を行う。オクターブを越える音程表現(プラス7度)についても触れる。	
15 前期試験	記譜法と理論の基礎について	
16 前期の復習及びまとめ	前期内容について、各自の理解が足りない項目の把握と復習を行う。	

授業の方法	
講義 演習・実験・実技・実習	
授業概要	
<p>基礎的な音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。楽典的なものから読譜力や音程・和音や旋律の知識を習得して楽曲に対する理解を広げていきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞</p>	
使用教材:モダンミュージックセオリー/モダンワークブック	
後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●コード理論基礎の習得</li> <li>●聞き取る能力の習得</li> </ul>	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1 Minor Scale 3種について	ナチュラルマイナースケール、ハーモニックマイナースケール、メロディックマイナースケールの発生について
2 トライアード Δ	主要三和音を中心に、まずは3声コードをベーシックとして考えて進めていきます。
3 4声コード	1度、3度、5度に対して7度の音がコードに加わってきます。トライアードとは、聞こえ方が違うので認識を深めていきます。
4 Major7thとminor7th	長7度と短7度の音程の違う音が4声目に置かれることにより、コードの響き、機能(function)、楽曲上の扱い等が変わってきます。
5 コードプログレッション	ハーモニーの流れは、大きな意味でコード進行が束ねる役割をしている。その流れには、ある種の関連性を持って並んでいます。
6 コード機能の基本	T(トニック) D(ドミナント) S(サブドミナント)というコード機能に関して学習していきます。
7 ケーデンス	一般的にコード進行の到着ポイントであるTonicChordに対しての法則性ある進行を学ぶ。
8 メジャーダイアトニックスケール	楽曲の中心となるコードは、このダイアトニックスケール上に発生するコードになる。少し角度を変えて、別のKeyのものも書き並べてみる。
9 マイナーダイアトニックスケール	楽曲の中心となるコードは、このダイアトニックスケール上に発生するコード。マイナーの場合は、より良いハーモニックな内容を考えたダイアトニックが現れる。
10 ダイアトニックコード内の代理機能	ダイアトニックスケール上のT・D・Sの代理コードを学びます。類似コード、または調性に反応する音などが含まれて、そのキャラクターは変わります。
11 ペンタトニックとブルーノート	ここでは、長音階と短音階に携わるコードやスケールだけではなく、少し調性に直接関係するスケールの響きを理解します。ロックミュージックのイメージがこの部分です。
12 アナライズ	学校で使用されている実際の楽曲を例に分析を行います。具体的に弾いていくための考え方をまとめます。
13 コード進行全般について	コードプログレッションについての総括を行い、与えられた楽曲に対して自分自身が分析することの必要性を理解します。
14 後期試験	記譜法、理論の基礎、コードネームとコード進行
15 一年間の復習及びまとめ	1年間の学習内容について、各自の理解が足りない項目の把握と復習